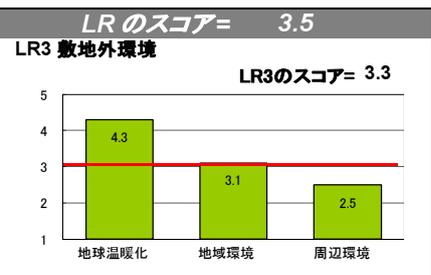
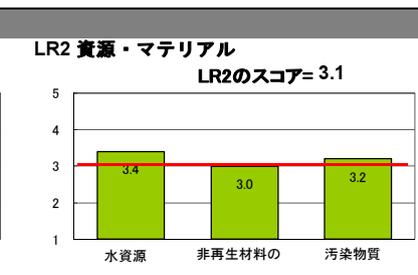
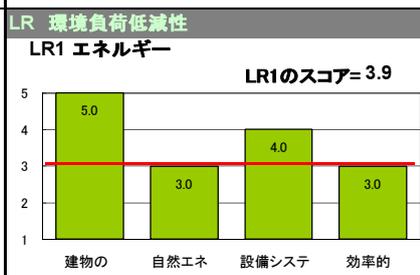
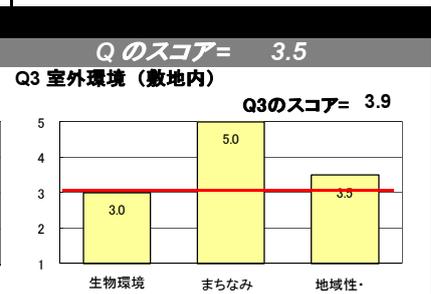
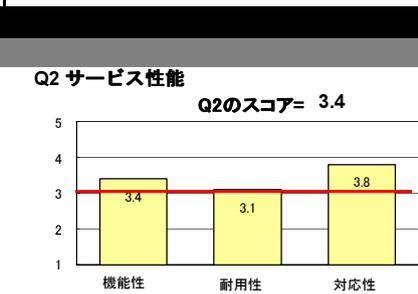
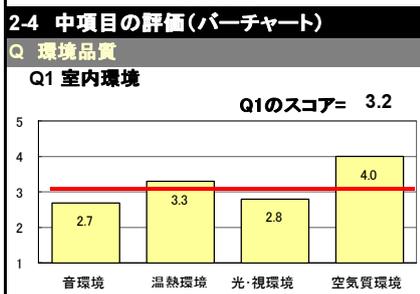
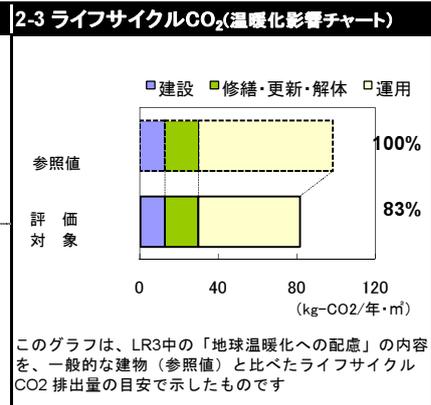
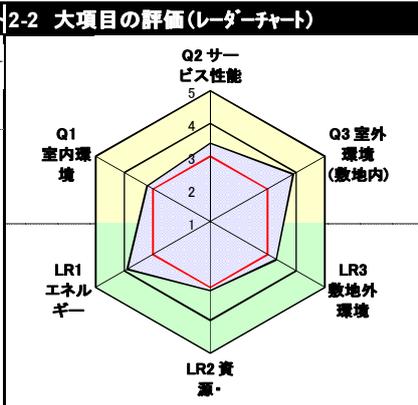
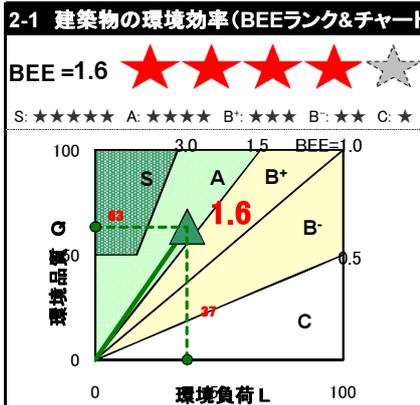


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都産業大学 大学施設及び附属中学校・高等学校	階数	地下1F、地上4F
建設地	京都府京都市下京区中堂寺命婦町	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,500 人
気候区分		年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年1月 予定	評価の実施日	2010年11月20日
敷地面積	23,828 m ²	作成者	
建築面積	12,646 m ²	確認日	
延床面積	34,986 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
「通り」が織り成す「街」の学び舎 「通り」が光庭や吹抜けを通して重なり合うことで、自然と建築、建築とひと、ひととひとが多様につながりあう「街」としての学び舎をつくりたい。「通り」は諸機能をつなぐだけでなく、自然の光や風が通り抜け、それ自体が生徒や教師の居場所にもなります。	0	
Q1 室内環境 ・内装仕上げ材料の化学汚染物質発散に配慮。 ・冬季22℃、夏季26℃を実現するための設備容量を確保。	Q2 サービス性能 ・建築物移動等円滑化基準を満たしている。 ・エコ・エモのコンセプトに基づき、天然素材を利用した内装としている。	Q3 室外環境(敷地内) ・家型をモチーフとし、京都の景観を考慮した形態・材料としている。 ・地域開放の大・中ホールを有する。 ・空調室外機の屋上設置。
LR1 エネルギー ・全熱交換器による熱負荷抑制。 ・初期照度補正型の照明の採用。	LR2 資源・マテリアル ・節水型器具の採用。 ・消火剤のハロンは一切使用していない。	LR3 敷地外環境 ・全熱交換器、初期照度補正型の照明の採用。 ・利用者の駐輪・駐車場を設置。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される